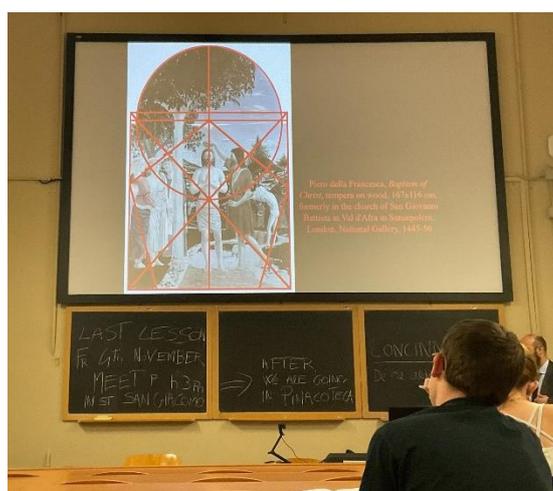


【大学・語学学校】

みなさんこんにちは。芸術文化学科の大木泉水です。イタリア・ボローニャ大学に留学している私の10月の生活と振り返りを紹介します。10月は大学が留学生向けに設けるイタリア語のクラスが始まったり、プライベートの語学学校の夜のコースに通い始めたりして、再度新たな環境のなかに身を置いて頑張りました。イタリア語の読み聞きによりやく慣れてきたところですが、私の課題は会話や筆記のアウトプットにあると感じています。『私は今日~した』などの簡単な文章を話すことや、質問されたことに対してSi(はい)かNo(いいえ)で答えるのは出来ても、意見を付け足すことやはっきり自分の主張を伝えることが難点でした。その難点を感じる一番大変だった出来事が、現地での銀行口座を開くことでした。現地の銀行を調べたり、直接銀行に足を運んだりして、自分がどうしたいのか、どのような手続きが必要なのかをイタリア語でやり取りしなければいけません。予約通り手続きが進められなかったり、銀行からかかってきた電話にうまく応答できず電話を切られたりと、イタリア語の洗礼を受け、辛くもあり、けれどもモチベーションにもなりました。

大学の講義は、中世芸術の歴史を履修していました。講義は座学メインですが、みんなでラヴェンナという古代ローマ時代に栄えていた都市を歩きながら先生の解説を聞くという機会がありました。サン・ヴィターレ聖堂やサンタポリナーレ・ヌオヴォ大聖堂に残る歴史を感じさせない華やかなモザイク画は、本当に15世紀近くも前に人間が造ったものとは思えないくらい緻密で感動しました。その他にも、授業の中でボローニャに残る芸術作品や大聖堂、教会をみんなで直接見て学ぶ機会があり、現地で学ぶ意義を感じています。

《ラヴェンナでの講義と座学の様子》



【フィレンツェ小旅行】

10月2日に、フィレンツェに行きました。フィレンツェにはイタリアを代表するルネッサンス芸術が溢れていて、家族でイタリアに来た時にとっても気に入った都市でした。イタリアでは毎月第一日曜日は誰でも無料で国営の美術館に入館できるため、私も無料でウフィツィ美術館の作品を鑑賞しました。ボッティチェリやピエロ・デッラ・フランチェスカなど、観るもの全てが贅沢で幸せな時間でした。教科書で見ていた芸術作品を直接見ると、世界観に引き込まれ、現地でどれだけ芸術が重んじられているかを体感することができました。

《フィレンツェの街並》



【生活】

10月は、9月よりも自由な時間が多くありました。ボローニャのチェントロ（中心）は、石造りの建物が立ち並びいつも多くの観光客でにぎわっています。そのため、自然がたくさんある静かな公園でピクニックや、そこで勉強したりすることにはまりました。シェアハウスに住んでいると、カルチャーショックやルームメイトの性格と合う・合わないが出てくるので、一人で静かに過ごせる時間を作ってストレスをため込まないように気を付けています。イタリア人は良くも悪くも、人と比べない、人の目を気にしない、人に気を遣いすぎない性格を持っていると感じます。今まで過度に人の目を気にしたり人と比べたりしたせいで、本当に自分がしたかったことや自分の感情が蔑ろになっていたことがあったかもしれないと思います。のんびりピクニックをしながら、たくさん考え事をしました。

【11月の目標】

11月は新しく履修する講義が3つあります。全部イタリア語のため、全てを理解するのは難しいですが、各教授や学生の芸術に対する評価や考え方を知ることが楽しみです。拙いイタリア語でも、新しく出会える人とコミュニケーションを取れるように頑張ります。